

施策番号	15
------	----

施策評価シート（評価対象年度：令和2年度）

基本政策	3	産業・雇用
施策名	15	観光・交流
10年後のまちの姿	○豊かな自然や歴史・文化等を舞台に、おもてなしの心を持った市民と何度も胎内市を訪れるファン、新たな観光客との活発な交流が行われています。	
施策展開の基本的な考え方	行政は、市内の主要な観光施設の適切な運営とともに、まちぐるみで着地型観光を推進するための合意形成に向けた支援等に取り組めます。 市民等は、地域の魅力に誇りを持ち、観光客の受入れに理解を示し、それぞれの立場からおもてなしに協力します。	
実現に向けた取組	①魅力的な観光プランの提供 ②食、アクティビティの魅力向上による消費・販売機会の拡大 ③施設・エリアの魅力向上と閑散期等対策 ④効果的・効率的な情報発信	
施策担当課・係	商工観光課 観光振興係	
施策関係課・係	農林水産課 農村交流係	

I 施策の実施状況

1 施策全体の事業費

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費（千円）	719,602	878,666	783,858	851,528	
事務事業数	22	21	21	21	
うち、事務事業評価対象	22	21	20	17	

2 成果指標の達成状況

指標	単位	基準値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和3年度 中間目標	令和8年度 最終目標
観光入込客数〔年間〕	千人	1,106	1,048	985	1,073	835		1,200	1,300
農家民泊登録先の実受入実施軒数の割合〔年間〕	%	30	45	23	27	0		40	50
道の駅胎内（観光交流センター）の売上〔年間〕	千円	7,669	6,866	7,770	8,474	9,017		8,740	9,880
既存施設のオフシーズン活用数〔年間〕	件	1	2	4	2	2		3	5
観光協会ホームページビュー数〔月平均〕	千ビュー	20	20	15	20	17		25	30
成果指標による現状分析	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、各施設の利用者が大幅に減少となっているほか、四季を通して計画していた様々なイベントも中止となった。一方で、冬の観光資源である胎内スキー場は、降雪に恵まれオープンすることができ、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら営業を行い大勢の来場者でにぎわった。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け農泊受入れは県外はもちろんのこと市内ふるさと体験学習での受入れも中止となり、受け入れ側、送り手側双方の不安を払拭できない状況である。 道の駅胎内の売店売上は、基準値比118%となり、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら行ったイベントで増収となっている。 ホームページビュー数は、基準値比85%の17千ビューとなった。 								

3 施策の進捗状況

達成度	△ やや遅れている
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、各施設の利用者が減少している。また、各観光施設では臨時休業、時短営業などに取り組みながら経費節減等を行っている。 春から夏頃までのイベント（星まつりは、会場からネット生中継で実施）は中止としたものの、その後は新型コロナウイルス感染症対策のため、人数制限等を行いイベントを開催した。

4 取組の状況と今後の方向性

① 魅力的な観光プランの提供

施策の内容
<p>◇市内の豊かな自然や各種観光資源、歴史・文化資源、イベント等を活用した、誘客・消費につながる季節ごと、目的別の重点モデルコースを作成し、店舗やガイド等の受入体制、情報発信も含めたパッケージ化に取り組みます。</p> <p>◇モデルコースの作成に当たっては、各種団体や市民、学生等協力者の力を借りて、街並み等の新しい魅力の掘り起こしや体験プログラムの開発を行います。</p> <p>◇胎内型ツーリズム推進協議会301人会や受入農家と協力して教育体験旅行・ふるさと体験学習等の提供を継続します。</p>
これまでの主な取組と実績
<p>【モデルコースについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的別重点モデルコースについては随時見直しを図り、市内の多種多様な観光資源をパッケージ化し、観光客のニーズ、時世に沿った魅力的な観光プランの提供に努めている。令和元年度から作成している「いづり胎内・春夏・秋冬創刊号」を2回発行した。また、各創刊号では市内飲食店、菓子店のそれぞれの料理、お菓子等を掲載した。 <p>【体験プログラム開発について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、団体から個人で楽しむ観光、更にはアウトドア志向の高まりにより、豊かな自然を活かした秋冬のアウトドアアクティビティを用意した。 <p>【教育体験旅行・ふるさと体験学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校や専門学校等の受入について農泊を伴わない集合泊での受入れを行った。 (R2 市内小学校5校、市外小学校2校、盲学校高等部1校、専門学校1校)
主な課題と今後の対応
<p>【モデルコースについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光誘客を促し、地域資源を活用した所得と雇用機会の確保につなげるために、策定したモデルコースをどのような情報媒体（冊子・Web・SNS）で発信するべきか更に検討が必要である。 <p>【体験プログラム開発について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発する体験プログラムについては、観光客のニーズを見極めるとともに、市内の地域資源を最大限に引き出すようなプログラムの開発に、地域住民、民間企業等と連携をさらに深めつつ、取り組む必要がある。また、新型コロナウイルス感染症に対応した三密を避けた体験プログラムの取り組みを行う。 <p>【教育体験旅行・ふるさと体験学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内ふるさと体験学習の受入れ5校を中心に、市外、県外の小中学校の定期的な受入れ促進。受入れ民家戸数の拡充を図りながら、新型コロナウイルス感染症対策に向け農泊受入れに関する情報収集やマニュアルの作成、受け手側、送り手側双方の不安払拭を図り新たな体験学習の方法を再検討する。

② 食、アクティビティの魅力向上による消費・販売機会の拡大

施策の内容
<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅や物産館等への誘客を図るため、観光客だけでなく地元消費者のニーズを捉えた商品開発や販売方法の見直しを行います。 ・魅力的な飲食施設やレジャー施設を発掘し、観光プランへの反映や積極的なPRを行います。 ・事業者、農業者や食品加工業者等による新たな特産品や飲食施設の展開を支援します。
これまでの主な取組と実績
<p>【道の駅等への誘客促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅や物産館等への誘客促進として、農産物生産団体、地域おこし協力隊、個人農家などから安心・安全の農産物等の販売を行ない、市外の方のみならず、地元消費者ニーズに対しても対応した。 ・道の駅胎内においてH29からは胎内高原ビールや胎内高原ワインの販売を開始した。 ・令和元年9月、胎内市出身の声優、長谷川玲奈さんが観光PR大使に就任。道の駅内に長谷川玲奈グッズや写真を展示したコーナーを設置し、誘客促進に努めた。また、写真集が販売され、サイン会を開催した。 <p>【飲食施設等の観光プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自園産ぶどう100%の胎内高原ワインを絡め、ロイヤル胎内パークホテルでは胎内高原ワインフルコースプラン、新しく「1日1組限定の女子旅プラン（胎内高原ワインボトル1本付き）」を造成し、好評を博した。 <p>【新たな特産品開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・べにはるかについては、生産者、JA胎内、胎内市、新潟食料農業大学が共同して胎内産べにはるかのブランド化を図るため新ブランド名はるかなたとして販売を開始した。また中条町商工会では市内小学生からアイデアを募集し市内菓子店等が商品化するスイーツフェアを毎年開催しており市もオブザーバーとして参加し特産品の推進を図っている。
主な課題と今後の対応
<p>【道の駅等への誘客促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略的に誘客促進に取り組むため、飲食・物販の核となる場の整備方針（ハード、ソフト）を定め、市内全体として更に胎内の魅力に触れる場を創出する。 ・胎内高原ワインについて需要が年々増えている反面、品切れを起こしているため、ブドウの収穫量を増やす取組が必要。また、市内の酒販店への優先的出荷や、価値を高めてくれる酒販店や消費者との取引を行い、地域の活性化やブランド価値の向上に繋げる。 <p>【飲食施設等の観光プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客のニーズを見極めるとともに、市内の地域資源を最大限に引き出すプラン・メニューの開発に、地域住民、民間企業等と連携をさらに深めつつ、取り組む必要がある。 <p>【新たな特産品開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産品としては、米粉・ワイン・べにはるか・マコモダケ等の商品開発や加工開発をしており、今後は農業者、民間事業者、地域おこし協力隊等が連携し、新たな特産品開発が進められるよう支援する。 ・胎内産べにはるかの新ブランドはるかなたを新たな特産として推進していく。

③ 施設・エリアの魅力向上と閑散期等対策

施策の内容
<ul style="list-style-type: none"> 施設の長寿命化対策と併せた再整備や閑散期対策を行い、施設の有効活用を図ります。運営の効率化に高い効果が期待できる場合には、指定管理者制度*等の導入を検討します。 特に老朽化の進んだ施設や利用が著しく少ない施設、教育等その他の分野での活用があまり期待できない施設については、廃止や用途変更も含めて今後の活用方針を検討します。 鉄道や観光バスで地域を訪れる人のための二次交通を提供する方策を検討します。
これまでの主な取組と実績
<p>【施設の有効活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の長寿命化については、辺地対策事業債を活用し、大規模改修並びに部分改修を行ない、一般財源を抑えた中での改修を進めている。（ロイヤル胎内パークホテル・胎内スキー場・クアハウスたいない・塩の湯温泉・樽ヶ橋遊園等） <p>【施設の活用方針の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用状況が少ない施設等に関しては、選択と集中のなかで方針を検討している。 胎内アウレツ館は多額の改修費が必要となること及び運営の収支状況から、令和元年度の運営を休止することとした。 <p>【二次交通の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> 二次交通の提供に関しては、新型コロナウイルス感染症対策のため、6月から12月までの間、土日・祝日に限定して市内の行楽地を巡る無料観光バスを運行した。
主な課題と今後の対応
<p>【施設の有効活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設やエリアの魅力向上策として、新たなプログラムを作成し、閑散期やオフシーズンの活用を考え、更に強化を図る。 胎内リゾートエリアでは、生涯学習施設等と施設間の連携強化も進めていく。 <p>【二次交通の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> 二次交通の提供に関しては、令和3年度も引き続き運行する。 <p>【施設の活用方法の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> 胎内アウレツ館の廃止の方策について継続的に検討する。

④ 効果的・効率的な情報発信

施策の内容
<ul style="list-style-type: none"> 観光拠点やその周辺の環境整備や景観整備、デザイン性の高いサインの設置等、地域の魅力向上につながる方策を検討します。 観光協会をはじめとする関係団体と協力して各種メディアへの働きかけやSNSの活用等を強化し、胎内市の観光情報を積極的に発信するほか、新発田市、聖籠町等の近隣の自治体や観光地と連携して情報発信や集客の強化を図ります。 単独の宿泊施設や商業者では難しい企画や営業を進めていくために、関係者の交流の場や専門性を持ったDMO等の組織の設立を検討します。
これまでの主な取組と実績
<p>【観光の環境整備等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光サインの整備については、観光拠点を中心とした整備計画のもと、サインマスタープランのとおり計画的に更新しているほか、設置場所を再度検討し撤去を実施。 <p>【観光情報の発信等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光情報の発信については、商工観光課フェイスブック、樽ヶ橋遊園ブログ、インスタグラム、タイナインスタなどSNSを活用して観光情報を発信するとともに、胎内市観光協会のホームページ、ブログ、フェイスブックなどの活用に関しても、連携を図り情報発信を依頼している。今年度から樽ヶ橋遊園のインスタグラム、ツイッターを開設した。 <p>【DMO等の設立】</p> <ul style="list-style-type: none"> DMOの設立については、具体的な検討はしていない。
主な課題と今後の対応
<p>【観光の環境整備等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光サインの整備については、胎内市観光サインマスタープランに基づき、財政状況を考慮し優先順位のもと計画的に改修を行なう。 <p>【観光情報の発信等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光情報の発信については、これまでと同様に、胎内市観光協会とも連携を図りSNS等を活用して行っていく。 <p>また、キノトラベルやNPOヨリシロなどの市内の観光・まちづくりに関係する民間団体とも連携を図り、情報発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 阿賀北9市町村（新発田市・村上市・阿賀野市・胎内市・五泉市・聖籠町・関川村・粟島浦村・阿賀町）による、広域的な連携のなかで、観光振興が図られる取り組みを行う。 <p>【DMO等の設立】</p> <ul style="list-style-type: none"> DMOについては、広域連携による取り組みの中で推し進めていることから現段階においては設立はしないものとする。

5 施策の今後の方針

施策方針	◎ 拡充
施策方針に関する説明	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら地域の観光資源を生かした体験プラン等を観光振興推進サポーターを主として市、関係団体等と造成をし観光交流人口の拡大を図る。 オールシーズン胎内として、核となるロイヤル胎内パークホテルの入り込みを図る取り組みとして、新潟市内、近県、首都圏などをターゲットにした誘客促進を図る。また、冬季間のレジャー施設であるスキー場以外のアクティビティ（体験プログラムなど）を充実させ魅力ある冬の胎内をPRする。 「米粉のまち」として、飲食店・菓子店等にある米粉商品を市内外に向けPRする。 新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら定住自立圏広域観光推進協議会において、新発田市・聖籠町と連携をしながら地域の活性化に繋がる取り組みを進める。

II 施策を構成する事業等

事業 コード	事務事業名	R2 事業費		R3 当初予算額		達成度	施策目標 に対する 貢献	今後の 方向性	主な事業	担当課
			うち 一般財源		うち 一般財源					
330110	チューリップフェスティバル事業	2,447	2,447	3,637	3,277	×	○	③		農林水産課
330111	フルーツパーク運営事業	10,397	10,397	10,258	9,654	×	△	③		農林水産課
330112	フラワーパーク運営事業	5,221	4,791	5,608	5,065	△	△	③		農林水産課
330114	胎内型ツーリズム推進事業	863	863	949	949	×	△	③		農林水産課
330120	避難小屋・登山道関連事業	8,424	6,339	9,074	6,169	○	○	③		商工観光課
330210	農業まつり事業	0	0	524	524	×	△	③		農林水産課
330310	塩の湯施設管理事業	28,111	17,261	169,543	7,406	△	○	③	○	商工観光課
330311	海水浴場管理運営事業	3,379	3,262	2,283	2,166	×	△	③		商工観光課
330312	はまなすの丘維持管理事業	1,575	1,473	1,622	1,516	○	○	③		商工観光課
330313	観光物産館管理事業	7,969	7,942	3,718	3,691	△	○	③		商工観光課
330316	ロイヤル胎内パークホテル運営事業	131,077	82,637	332,534	78,003	△	○	②	○	商工観光課
330317	奥胎内ヒュッテ管理事業	1,278	1,268	808	798	△	○	②		商工観光課
330318	クアハウスたいない管理事業	39,128	39,086	39,141	39,088	△	○	⑤		商工観光課
330319	樽ヶ橋遊園運営事業	505,488	12,663	161,863	0	△	○	④	○	商工観光課
330320	胎内スキー場管理事業	32,991	24,593	110,718	19,821	◎	○	③	○	商工観光課
330322	観光交流センター運営事業	11,269	11,234	11,327	11,292	△	○	②		商工観光課
330410	観光振興事業	49,812	37,141	38,424	37,416	△	○	③	○	商工観光課

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330110		担当課	農林水産課	担当係	農村交流係	担当者			
事務事業名	チューリップフェスティバル事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	06	農林水産業費
施策	15	観光・交流		中	01	魅力的な観光プランの提供		項	01	農業費
				小	10	チューリップフェスティバル事業		目	05	農業振興費
事務区分	法定受託事務		自治事務		○	根拠法令				
	法令による義務付け		任意			関連条例	関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	市及びチューリップフェスティバル実行委員会が主催となり、観光と農業を結びつけたイベントを開催し、市産チューリップの振興と地域の活性化を図る。
主な実施内容	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
実施方法	市が直接実施+委託+補助・負担

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	◎	△	◎	×	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

【H29～】
既存のチューリップウエディング・ヘリコプター遊覧飛行等の他新しいイベントを計画し誘客を図った。
動物ふれあい広場の開催を計画、開催（H30は雨天の為中止）

【H31～】
市予算から実行委員会会計への一部予算移行を行い経費削減を図った。

【R2】
ヘリコプター遊覧発着場所の変更をし経費の削減、駐車場の確保を試みたが、開催中止となった。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	5,104	5,070	2,799	2,447	3,637	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	360	
一般財源	5,104	5,070	2,799	2,447	3,277	
人件費（千円）	626	634	351	351		
正(h) ※事業費	185	185	185	185		
会計年度 ※事業費 任用(h) ※事業費	342	342	0	0		
総事業費+人件費	5,730	5,704	3,150	2,798		
財源「その他」内訳	時間手当91千円、印刷製本費159千円、栽培管理委託料2,079千円					
事業費の主な支出内容	時間手当91千円、印刷製本費159千円、栽培管理委託料2,079千円					
単位コスト	算出方法	総事業費/入場者数				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		80	110	41	0	

6 事業の課題

- ・ほ場周りを舗装し来場者の歩きやすい会場とする。
- ・チューリップウエディング開催方法の見直し。
- ・写真コンテスト入賞者数、賞金額・賞状形態の見直し。

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	開催日数	開催日数	市内事業者出店数	市内事業者出店数	市内事業者出店数
	目標	14日間	14日間	9事業者	10事業者	11事業者
	実績	14日間	11日間	6事業者	0事業者	
成果指標	名称	来場者数	来場者数	来場者数	来場者数	来場者数
	目標	60,000人	60,000人	60,000人	60,000人	60,000人
	実績	63,898人	46,434人	68,501人	0人	
	目標比	106.0%	77.3%	114.0%	0.0%	

7 課題解決に向けた今後の取組

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
今後の方向性	⑤	③	③	③	
<ul style="list-style-type: none"> ・フェスティバル期間に行う各種イベント・出店について再考する。 ・リゾート地区とフェスティバル会場をつなぐ仕掛けを試みて更に市外からの誘客を図る。 					

8 二次評価委員会所見

二次評価委員会所見					
-----------	--	--	--	--	--

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
		削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330111		担当課	農林水産課	担当係	農村交流係	担当者			
事務事業名	フルーツパーク運営事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	06	農林水産業費
施策	15	観光・交流		中	01	魅力的な観光プランの提供		項	01	農業費
				小	11	フルーツパーク運営事業		目	05	農業振興費
事務区分	法定受託事務		自治事務		○	根拠法令				
	法令による義務付け		任意			関連条例	関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	市直営の果樹園として、もぎ取り体験等を通し市民へのやすらぎある憩いの場の提供、都市農村交流の拡大及び果樹の振興と活性化を図る。
主な実施内容	・果樹栽培の計画見直し ・施設の維持管理及び果樹栽培を外部委託
実施方法	委託

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	×	×	×	×	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	毎年もぎ取り体験等行ってきたが、気象状況による影響等で安定した生産量の確保ができず目標達成ができなかった、また熊が出没した為営業が困難な状況である。その為果樹栽培計画の見直しを行い、果樹の伐採や新たな加工用ブドウ苗の植栽を行った。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

・H29	ワイン増産に向け果樹栽培計画を見直し、加工用ブドウ200本植栽。
・R1	加工用ブドウ226本植栽

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	11,507	11,508	10,008	10,398	10,258	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	0	
その他	2,240	454	349	391	604	
一般財源	9,267	11,054	9,659	10,007	9,654	
人件費（千円）	0	0	0	0	0	
正(h) ※事業費	0	0	0	0	0	
会計年度 ※事業任用(h)	0	0	0	0	0	
総事業費+人件費	11,507	11,508	10,008	10,398		
財源「その他」内訳	フルーツパーク生産物販売収入 391千円					
事業費の主な支出内容	火災保険料8千円 修繕費390千円 管理委託料10,000千円					
単位コスト	算出方法	総事業費における収穫量1kg当たりの経費 総事業費/収穫量				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		5.6	21.6	25.7	20.0	

6 事業の課題

・専門技術を有する労働力が不足している。
・果樹栽培の実証圃場として整備されたことで限られた栽培面積であり、収穫量が不安定である。また、気象状況（地域特有の風）等によりその対策を講じながら栽培に取り組んでいる。
・ワイン用ブドウへ切替えを行うにあたり、仕立ての変更や栽培方法の検討を行う必要がある。

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	⑤	③	③	③	
ワインの需要増による増産に向けて、加工用ぶどうの生産に移行していく。					

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	栽培本数	栽培本数	栽培本数
	目標	150日	150日	500本	750本	1,000本
	実績	153日	153日	481本	718本	
成果指標	名称	入園来場者数	入園来場者数	収穫量	収穫量	収穫量
	目標	1,300人	1,300人	970kg	950kg	1,000kg
	実績	1,021人	40人	390kg	520kg	
	目標比	78.5%	3.1%	40.2%	54.7%	

8 二次評価委員会所見

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
		削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330112		担当課	農林水産課	担当係	農村交流係	担当者			
事務事業名	フラワーパーク運営事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	06	農林水産業費
施策	15	観光・交流		中	01	魅力的な観光プランの提供		項	01	農業費
				小	12	フラワーパーク運営事業		目	06	フラワーパーク費
事務区分	法定受託事務		自治事務		○	根拠法令				
	法令による義務付け		任意			関連条例	関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	胎内リゾートエリア内にある施設であることから周辺観光施設と連携し、市民へのやすらぎある憩い場の提供、観光交流人口の拡大及び園芸の振興の地域活性化を図る。
主な実施内容	ロイヤル胎内パークホテル及び周辺観光施設と連携し誘客を図った。 春から秋にかけての草花や草木を植栽しているほか、芝広場や東屋の設置により様々な年齢層の人々が憩える空間を作っている。 ボランティアを受け入れ、園内整備を行い、経費削減を図った。
実施方法	市が直接実施

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	13,432	12,819	4,934	5,221	5,608	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	0	
その他	649	1,190	885	428	543	
一般財源	12,783	11,629	4,049	4,793	5,065	
人件費（千円）	3,866	371	380	569		
正(h)	2,100	200	200	300		
会計年度任用(h)	6,451	6,451	1,757	1,757		
総事業費+人件費	17,298	13,190	5,314	5,790		
財源「その他」内訳	人工培養施設使用者負担146千円、鹿ノ俣線入金240千円					
事業費の主な支出内容	給料1,908千円 需用費1,011千円 委託料748千円 原材料費1,080千円					
単位コスト	算出方法	(総事業費+人件費-工事費)/入園者数				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		5,104円	5,735円	2,310円	2,869円	

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数
	目標	188日	188日	188日	188日	188日
	実績	191日	190日	190日	189	
成果指標	名称	入園来場者数	入園来場者数	入園来場者数	入園来場者数	入園来場者数
	目標	4,000人	4,000人	4,000人	4,000人	4,000人
	実績	3,389人	2,300人	2,300人	2,018人	
	目標比	84.7%	57.5%	57.5%	50.0%	

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	○	△	△	△	
評価の理由	コロナ禍の状況ではあるが前年比としては7%減でおさえた。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

【H30】	施設管理職員1名を臨時職員に変更し経費削減を図った。
【R1】	入園料を無料化して公園的な管理とし、臨時職員の人員削減、シルバー人材の活用及びボランティアの協力により管理経費を削減した。
【R2】	円滑な公園管理をすべく常勤の職員を配置し作業の効率化を図った。

6 事業の課題

市民ボランティアを増やし公園管理に協力してもらう

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	⑥	③	③	③	
市報・SNSなどでボランティアの活動を紹介し広く市民に認知してもらうボランティアスタッフとコミュニケーションを取り楽しく活動出来る環境を整える。					
近隣リゾート施設との連携を図り集客に努める。					

8 二次評価委員会所見

--

今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
		削減	縮小	維持
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330114		担当課	農林水産課	担当係	農村交流係	担当者			
事務事業名	胎内型ツーリズム推進事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	31	農業振興	予算科目	款	06	農林水産業費
施策	15	観光・交流		中	04	条件不利地域における農業生産の継続支援		項	01	農業費
				小	11	胎内型ツーリズム推進事業		目	05	農業振興費
事務区分	法定受託事務		自治事務		○	根拠法令				
	法令による義務付け		任意			関連条例	関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	都市住民に自然や農業体験の場を提供することを通じて、農家・地域住民の生きがいを創出するとともに地域農業の振興を図る。
主な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと体験学習および体験教育旅行の受入 県内等小・中・高・専門学生の体験教育旅行の誘致 着地型企画の造成及び日帰り型体験活動の利用促進
実施方法	その他

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	◎	○	○	×	
評価の理由	◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない 新型コロナウイルス感染症の影響から首都圏等からの来訪がなかったことや、農泊受入ができなかったことから達成度は×になったが、市内および県内の学校受入等については、概ね順調に事業実施できた。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

<ul style="list-style-type: none"> 首都圏中学校の農泊受入による新規農泊受入先及び休止中の世帯の受入掘り起こしにより、新規登録に成功した。 観光ボランティアガイド等地域の先生の積極的な活用。 ネイチャーガイド養成勉強会等を実施し担い手の育成。 R2年度の301人会負担金を減額した（600千円→500千円） 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から農泊の中止。
--

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	1,212	1,118	888	863	949	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	
一般財源	1,212	1,118	888	863	949	
人件費（千円）	3,682	3,712	3,798	3,790		
正(h) ※事業費	2,000	2,000	2,000	2,000		
会計年度 ※事業費任用(h)	0	0	0	0		
総事業費+人件費	4,894	4,830	4,686	4,653		
財源「その他」内訳	301人会負担金 500千円 職員手当等 64千円					
事業費の主な支出内容	301人会負担金 500千円 職員手当等 64千円					
単位コスト	算出方法	(総事業費+人件費) / 述べ体験者数				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		4,481円	4,476円	6,054円	8,022円	

6 事業の課題

活動拠点であった胎内アウレツ館の休止による活動場所の確保や、今後の農泊の受入について、新型コロナウイルス感染拡大防止策を検討しながら、利用者が安心して体験活動を行えるようにする。

3 指標値の状況

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
産出指標	名称	受入数(校) ①市内小学校 ②市外小学校 ③首都圏中学	受入数(校) ①市内小学校 ②市外小学校 ③首都圏中学	受入数(校) ①市内小学校 ②市外小学校 ③首都圏中学	受入数(校) ①市内小学校 ②市外小学校 ③首都圏中学	受入数(校) ①市内小学校 ②市外小学校 ③首都圏中学
	目標	①5校 ②4校 ③1校	①5校 ②4校 ③1校	①5校 ②5校 ③1校	①5校 ②5校 ③1校	①5校 ②5校 ③1校
	実績	①5校 ②4校 ③1校	①5校 ②4校 ③0校	①5校 ②3校 ③0校	①5校 ②2校 ③0校	
成果指標	名称	農泊受入先の実受入軒数の割合の向上	農泊受入先の実受入軒数の割合の向上	農泊受入先の実受入軒数の割合の向上	農泊受入先の実受入軒数の割合の向上	農泊受入先の実受入軒数の割合の向上
	目標	35%	37%	38%	40%	40%
	実績	45%	23%	24%	0%	
	目標比	128.0%	62.1%	63.1%	0.0%	

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	⑤	③	③	③	
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により、学校・団体の農泊・体験活動が中止や延期になった。県や旅行者と連携し、日帰りを中心とした体験活動を提供し送手側、受手側双方が安心して事業を行えるようにする。 現状の農家民泊の劇的な増加は困難なことから、新潟県少年自然の家や市内の宿泊施設と連携し農業体験等の提供も検討する。また、農泊が再開しても迅速な対応ができるよう受入農家との情報交換や共有を図る。 					

8 二次評価委員会所見

<p>今後の方向性</p> <table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td>④</td> <td>②</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>⑤</td> <td>③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>⑥</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>⑦</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>縮小</td> <td>維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td colspan="4">コスト投入の方向性</td> </tr> </table>	拡充	④	②	①	維持	⑤	③		縮小	⑥			休廃止	⑦				削減	縮小	維持				拡大	コスト投入の方向性			
拡充	④	②	①																									
維持	⑤	③																										
縮小	⑥																											
休廃止	⑦																											
	削減	縮小	維持																									
			拡大																									
コスト投入の方向性																												

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330120		担当課	商工観光課	担当係	観光振興係	担当者			
事務事業名	避難小屋・登山道関連事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	07	商工費
施策	15	観光・交流		中	01	魅力的な観光プランの提供		項	01	商工費
				小	20	避難小屋・登山道関連事業		目	03	観光費
事務区分	法定受託事務		自治事務		○	根拠法令				
	法令による義務付け		任意			関連条例	関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	登山者の安全と利便を図るため、避難小屋及び登山道の整備、管理を行い、飯豊連峰、楡形山脈の魅力発信する。
主な実施内容	・飯豊連峰、楡形山脈の登山道の草刈等維持管理 ・門内岳避難小屋・頼母木避難小屋の夏場の常駐、維持管理
実施方法	市が直接実施+委託

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	×	◎	◎	○	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	コロナ禍の中、目標値をほぼクリアしている。今後、コロナ過で密を避けるという観点から、登山というコンテンツはさらに人気となっていくことが想定される。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

【H30】
飯豊連峰避難小屋（門内、頼母木）の窓枠及び壁補修等を行った。新たな観光スポットとして奥胎内のブナ巨樹エリアの歩道整備及び周辺の環境整備を行った。

【R2】
奥胎内にある鍋倉山の登山道整備を行った。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

総事業費（千円）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	0	
その他	3	1,376	1,943	2,085	2,905	
一般財源	5,354	5,992	5,403	6,339	6,169	
人件費（千円）	514	520	532	531		
正(h)	※事業費 279	280	280	280		
会計年度任用(h)	※事業費 0	0	0	0		
総事業費+人件費	5,871	7,888	7,878	8,955		
財源「その他」内訳	寄付金、避難小屋売店収入、負担金					
事業費の主な支出内容	委託料5,493千円 需用費1,178千円 原材料費404千円					
単位コスト	算出方法	総事業費/登山者数				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		690円	528円	545円	706円	

6 事業の課題

避難小屋、登山道維持管理業務先の山の会等のメンバーの高齢化と後継者不足が課題と考える。

3 指標値の状況

産出指標	名称	①飯豊連峰登山道維持管理期間 ②各避難小屋常駐管理期間	①飯豊連峰登山道維持管理期間 ②各避難小屋常駐管理期間	①飯豊連峰登山道維持管理期間 ②各避難小屋常駐管理期間	①飯豊連峰登山道維持管理期間 ②各避難小屋常駐管理期間	①飯豊連峰登山道維持管理期間 ②各避難小屋常駐管理期間
	目標	①209日間 ②62日間	①209日間 ②62日間	①209日間 ②78日間	①209日間 ②78日間	①209日間 ②78日間
	実績	①209日間 ②62日間	①209日間 ②62日間	①208日間 ②57日間	①209日間 ②73日間	
成果指標	名称	①楡形山脈登山者数 ②飯豊連峰登山者数	①楡形山脈登山者数 ②飯豊連峰登山者数	①楡形山脈登山者数 ②飯豊連峰登山者数	①楡形山脈登山者数 ②飯豊連峰登山者数	①楡形山脈登山者数 ②飯豊連峰登山者数
	目標	①9,042人 ②2,222人	①9,042人 ②2,222人	①9,042人 ②2,222人	①9,042人 ②2,222人	①9,042人 ②2,222人
	実績	①6,970人 ②790人	①9,600人 ②4,330人	①10,010人 ②3,450人	①8,900人 ②3,030人	
	目標比	①77% ②35%	①106% ②195%	①110% ②155%	①98% ②136%	

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	③	③	③	③	
貴重な自然が手つかずで残る飯豊連峰や日本一小さい山脈である楡形山脈の環境を維持していくことは、現在を生きる我々だけではなく、後世へ受け継ぐべき重要なことである。登山者の安全確保、利便性も合わせ、維持管理業務は不可欠である。そのため、H23年度より飯豊連峰の避難小屋管理及び登山道整備等を飯豊・胎内の会に委託し、今後さらに行き届いた管理整備ができるよう推進していく。山の会等の関係者との連携を密にし、管理していくことが重要である。					

8 二次評価委員会所見

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
		削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330210		担当課	農林水産課	担当係	農村交流係	担当者			
事務事業名	農業まつり事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	06	農林水産業費
施策	15	観光・交流		中	02	食、アクティビティの魅力向上による消費・販売機会の拡大		項	01	農業費
				小	10	農業まつり事業		目	05	農業振興費
事務区分	法定受託事務		〇	根拠法令						
	法令による義務付け			任意	関連条例			関連計画		

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	地域の特性を活かした農産物、加工品等を販売するイベントを開催し、市民への周知と消費拡大により地域活性化を図る。
主な実施内容	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
実施方法	市が直接実施+補助・負担

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	×	△	○	×	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	開催が中止の為。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

【H30】	高所作業車乗車体験イベントなどを実施し誘客を図った。
【R1】	やらにゃんドームを設置し誘客を図ったが強風のため、設置を見送る。
【R2】	開催無し

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	461	439	473	0	524	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	
一般財源	461	439	473	0	524	
人件費（千円）	736	742	760	0		
正(h) ※事業費	400	400	400	0		
会計年度 ※事業費	0	0	0	0		
任用(h) ※事業費						
総事業費+人件費	1,197	1,181	1,233	0		
財源「その他」内訳						
事業費の主な支出内容						
単位コスト	算出方法	総事業費/入場者数				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		220	126	95	0	

6 事業の課題

他課（商工観光課）でのイベントである米粉フェスタと黒川産業まつりとの開催方法について今後調整が必要。
--

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	開催日数	開催日数	開催日数	開催日数	開催日数
	目標	1日	1日	1日	1日	1日
	実績	1日	1日	1日	0日	
成果指標	名称	来場者数	来場者数	来場者数	来場者数	来場者数
	目標	6,000人	6,000人	6,000人	6,000人	6,000人
	実績	2,100人	3,500人	5,000人	0人	
	目標比	35.0%	58.0%	83.0%	0.0%	

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	③	③	③	③	
地域の方々への農産物等の周知と消費拡大を図るために継続していく。雨天時の対応など会場も含め検討が必要。					

8 二次評価委員会所見

今後の事業のあり方等について検討する。

今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
		削減	縮小	維持
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330310		担当課	商工観光課	担当係	観光振興係	担当者			
事務事業名	塩の湯施設管理事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	03	民生費
施策	15	観光・交流		中	03	施設・エリアの魅力向上と閑散期等対策		項	01	社会福祉費
				小	10	塩の湯施設管理事業		目	03	老人福祉費
事務区分	法定受託事務		〇	根拠法令						
	法令による義務付け			関連条例	サンセット中条条例、高齢者健康増進ふれあい施設条例		関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	指定管理制度により塩の湯温泉施設の管理運営を行い、健康増進と寄りあいの場を提供する。
主な実施内容	塩の湯施設の温泉の運営・管理を行う。 平成17年度より指定管理者制度に移行 ・村松浜高齢者健康増進ふれあい施設 ・サンセット中条
実施方法	指定管理

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	○	○	○	△	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	コロナ禍も影響し、目標とする入館者数には達しなかった。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

【H30】	辺地対策事業債を活用した工事 ・サンセット中条空調設備改修工事 ・温泉供給管布設替工事
【R2】	指定管理者の変更 辺地対策事業債を活用した工事 ・塩の湯温泉施設改修工事設計業務委託

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	33,232	32,723	10,161	28,111	169,543	
国・県支出金	0	0	0		0	
地方債	20,100	22,400	0	7,600	160,300	
その他	1,809	1,856	1,882	3,250	1,837	
一般財源	11,323	8,467	8,279	17,261	7,406	
人件費（千円）	442	408	418	417		
正(h) ※事業費	240	220	220	220		
会計年度 ※事業費	0	0	0	0		
任用(h) ※事業費						
総事業費+人件費	33,674	33,131	10,579	28,528		
財源「その他」内訳	敷地使用料、給湯業務等受託収入					
事業費の主な支出内容	修繕費、委託料、借地料					
単位コスト	算出方法	総事業費/年間利用者数 ※工事費を除く				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		137円	103円	101円	201円	

6 事業の課題

利用者数の増加策を講じていくとともに、受益者負担の増額も視野に入れた中でコスト削減案を検討する。
--

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数
	目標	343日	343日	343日	344日	344日
	実績	344日	343日	344日	319日	
成果指標	名称	年間利用者数	年間利用者数	年間利用者数	年間利用者数	年間利用者数
	目標	101,000人	103,020人	103,200人	105,200人	105,200人
	実績	95,565人	99,595人	100,160人	67,910人	
	目標比	94.6%	96.6%	97.0%	64.5%	

7 課題解決に向けた今後の取組

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
今後の方向性	③	③	③	③	
新型コロナウイルス感染拡大に伴い外出自体を自粛する傾向にある中で、目標とする利用者数を維持又は増加させることは非常に厳しい状態であったと考えられるが、そのような状況でも指定管理者は経費の削減に注力し損失が最小限となるよう尽力していただいた。 令和3年度には、辺地債を活用した施設改修工事も実施されることから、コロナ禍の収束を見据えた中で効率的な管理運営を図っていく。					

8 二次評価委員会所見

コロナ禍の影響なども見定めながら、料金の見直しを検討する。

今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
	削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330311		担当課	商工観光課		担当係	観光振興係		担当者	
事務事業名	海水浴場管理運営事業		事業年度	令和2年度			会計区分	一般会計		
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	07	商工費
施策	15	観光・交流		中	03	施設・エリアの魅力向上と閑散期等対策		項	01	商工費
				小	11	海水浴場管理運営事業		目	03	観光費
事務区分	法定受託事務		〇	根拠法令						
	法令による義務付け			任意		関連条例				関連計画

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	市内はもとより市外からの観光誘客を図るために、村松浜に海水浴場を設置し、海水浴場開設期間中の場内を安全と衛生を保つ。
主な実施内容	海岸に安全を確保できる範囲・深さの区画を指定し、夏期の一定期間、海水浴場として開放し安全管理と運営を行う。
実施方法	市が直接実施＋委託

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	△	△	×	×	
評価の理由	開設期間中の天候が不安定であり、中止せざるを得ない日が多くなった。また、コロナ渦により集客が難しい状況である。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

【H29】
海水浴場の誘客を図るため、国道からの入口付近にのぼり旗を設置した。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

総事業費（千円）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	0	
その他	117	117	117	117	117	
一般財源	1,667	1,945	2,434	3,262	2,166	
人件費（千円）	214	56	95	57		
正(h) ※事業費	116	30	50	30		
会計年度任用(h) ※事業費	467	0	0	0		
総事業費＋人件費	1,998	2,118	2,646	3,436		
財源「その他」内訳	旧村松浜小グラウンド使用料					
事業費の主な支出内容	委託料1,544千円 工事請負費1,298千円 光熱水費86千円					
単位コスト	算出方法	総事業費／来場者数 ※工事費は除く				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		456円	511円	812円	1,508円	

6 事業の課題

地元集落の協力のもと、監視員を確保しているものの従事者の高齢化、人員不足が今後の課題と考える。

3 指標値の状況

産出指標	名称	開設期間	開設期間	開設期間	開設期間	開設期間
	目標	33日間	34日間	35日間	35日間	35日間
	実績	34日間	35日間	36日間	38日間	
成果指標	名称	開設期間中の来場者数	開設期間中の来場者数	開設期間中の来場者数	開設期間中の来場者数	開設期間中の来場者数
	目標	5,790人	5,890人	5,990人	5,990人	5,990人
	実績	3,910人	4,030人	3,140人	1,380人	
	目標比	67.5%	68.5%	52.4%	23.0%	

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	③	③	③	③	

来場者数については、開設期間の天候状況により変動するものの年々減少傾向であり今後の事業の在り方について困惑している。また、村松浜海水浴場は、村上市の瀬波や笹川流れ、新発田市の藤塚浜といったポピュラーな海水浴場に挟まれていることもあり、海水浴客がさらに少ない現状である。このような状況であるため、地元集落等から聴取した意見を踏まえて事業の継続を検討する。しかし、釣り具の有名メーカー主催による釣り大会が2～3回行われ釣りには適した場所ということから、視点を変えた観光資源の利用も一つであると考えらる。

8 二次評価委員会所見

イベント主催者等からの協力金の徴収について検討する。

今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
	削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330312		担当課	商工観光課		担当係	観光振興係		担当者	
事務事業名	はまなすの丘維持管理事業		事業年度	令和2年度			会計区分	一般会計		
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	07	商工費
施策	15	観光・交流		中	03	施設・エリアの魅力向上と閑散期等対策		項	01	商工費
				小	12	はまなすの丘維持管理事業		目	03	観光費
事務区分	法定受託事務		自治事務		○	根拠法令				
	法令による義務付け		任意			関連条例	関連計画			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	昭和59年に新潟県が指定した桃崎浜自然環境保全地域の、学術的にも貴重なハマナスなどの海岸植物の群生地を、来場者に親しんでいただける環境を整備し、誘客を図る。
主な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設及び周辺の維持管理 公衆トイレや浄化槽の清掃 施設の修繕
実施方法	市が直接実施＋委託

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	4,033	11,080	1,850	1,575	1,622	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	9,500	0	0	0	
その他	72	87	93	102	106	
一般財源	3,961	1,493	1,757	1,473	1,516	
人件費（千円）	144	93	95	95		
正(h) ※事業費	78	50	50	50		
会計年度 ※事業費	0	0	0	0		
任用(h) ※事業費						
総事業費＋人件費	4,177	11,173	1,945	1,670		
財源「その他」内訳	自動販売機収入92千円、敷地使用料10千円					
事業費の主な支出内容	管理委託料1,143千円、用地借地料235千円、光熱水費120千円、修繕費65千円					
単位コスト	算出方法	総事業費／来場者数 ※工事関係費を除く				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		13円	17円	18円	15円	

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	開設日数	開設日数	開設日数	開設日数	開設日数
	目標	365日	365日	366日	365日	365日
	実績	365日	365日	366日	365日	
成果指標	名称	来場者数	来場者数	来場者数	来場者数	来場者数
	目標	119,240人	119,740人	120,240人	119,740人	119,740人
	実績	111,700人	89,350人	99,280人	103,310人	
	目標比	93.7%	74.6%	82.6%	86.3%	

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	○	△	○	○	
評価の理由	◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない 成果指標の達成状況による				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

[H30]	東屋周辺の園路舗装工事を実施
[R1]	公衆トイレの修繕を実施
[R2]	公衆トイレの修繕を実施

6 事業の課題

・砂丘植生が減少傾向にあるため回復と改善が求められる。

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	③	③	③	③	
・貴重な自然環境を保全し、今後も維持・管理していくことが必要である。 ・砂丘植生が一部退化している状況であり、自然保護審議会委員からの意見・指導により景観づくりに努める。					

8 二次評価委員会所見

--

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
		削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330313		担当課	商工観光課	担当係	観光振興係	担当者			
事務事業名	観光物産館管理事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	07	商工費
施策	15	観光・交流		中	03	施設・エリアの魅力向上と閑散期等対策		項	01	商工費
				小	13	観光物産館管理事業		目	03	観光費
事務区分	法定受託事務		〇	根拠法令						
	法令による義務付け			関連条例	きのと観光物産館条例	関連計画				

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	指定管理制度によりきのと観光物産館の利用者に観光情報および食事・休憩スペースを提供することで、地域の観光振興と活性化を図る拠点として整備する。
主な実施内容	きのと観光物産館に観光情報コーナーや食事・休憩スペースを整備し、施設の維持管理を行う。
実施方法	指定管理

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	△	△	△	△	
評価の理由	指定管理契約4年目となり、食堂部門が地域に根付き、来場者・収益共に上向き傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅な減収となった。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

平成29年度より指定管理委託を行っている。
【R2】
宴会スペース床下改修工事を実施した。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	4,639	9,143	3,795	7,969	3,718	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	4,000	0	0	0	
その他	27	27	27	27	27	
一般財源	4,612	5,116	3,768	7,942	3,691	
人件費（千円）	427	408	418	417		
正(h) ※事業費	232	220	220	220		
会計年度任用(h) ※事業費	0	0	0	0		
総事業費+人件費	5,066	9,551	4,213	8,386		
財源「その他」内訳	敷地使用料					
事業費の主な支出内容	委託料5,583千円 工事請負費2,352千円					
算出方法	総事業費/入込人数 ※工事費は除く					
単位コスト	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		191円	219円	172円	366円	

6 事業の課題

コロナ過の中で、自粛要請や3密回避で利用者が減少しており、売上げも下がっている。今後、どのように利益を確保していくかを考える必要がある。

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数	開館日数
	目標	313日間	313日間	313日間	313日間	313日
	実績	310日間	310日間	310日間	309日間	
成果指標	名称	入込人数	入込人数	入込人数	入込人数	入込人数
	目標	36,750人	37,050人	37,350人	37,350人	37,350人
	実績	24,260人	23,386人	21,955人	15,360人	
	目標比	66.0%	63.1%	58.7%	41.1%	

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	③	③	③	③	

新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少しそれにより売上也落ち込んでいる。そのため、コスト削減等の取り組みも必要である。施設の維持管理については乙区の団体と委託契約を交わしており、今後も継続していく方向である。当施設は乙地区で唯一のお食事処として親しまれており、重要な施設であるため修繕等を計画的に行い維持していく方向である。

8 二次評価委員会所見

今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
		削減	縮小	維持
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330316		担当課	商工観光課		担当係	観光振興係		担当者	
事務事業名	ロイヤル胎内パークホテル運営事業		事業年度	令和2年度			会計区分	一般会計		
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	07	商工費
施策	15	観光・交流		中	03	施設・エリアの魅力向上と閑散期等対策		項	01	商工費
				小	16	ロイヤル胎内パークホテル運営事業		目	03	観光費
事務区分	法定受託事務		自治事務		○	根拠法令				
	法令による義務付け		任意			関連条例	胎内市交流促進施設条例	関連計画	第2次胎内市観光振興ビジョン	

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	胎内市の観光拠点となるロイヤル胎内パークホテルを管理し、宿泊・温泉・食事等の施設サービスを提供するとともに、市民に地域活動への積極的な参加を促し、都市との交流や各種の活動を通じて創意と工夫に基づく地域活動を推進する。
主な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイヤル胎内パークホテルの管理 ・平成22年度より指定管理者制度を導入しており、現在は(株)胎内リゾートに運営を委託（令和2年度から2年間）
実施方法	指定管理

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	249,038	114,570	196,827	131,077	332,534	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	171,900	31,200	83,600	6,900	205,100	
その他	2,371	2,469	5,556	41,540	49,431	
一般財源	74,767	80,901	107,671	82,637	78,003	
人件費（千円）	447	445	456	455		
正(h)	240	240	240	240		
会計年度任用(h)	0	0	0	0		
総事業費+人件費	249,485	115,015	197,283	131,532		
財源「その他」内訳	光熱水費負担金40,829千円、辺地対策事業債6,900千円、電気主任技術者委託料負担金480千円、基金繰入金200千円					
事業費の主な支出内容	施設管理運営委託料63,800千円、光熱水費40,749千円、施設改修工事費9,179千円、工事設計業務委託料6,941千円、ホイールローダーリース料4,054千円、自動車リース料1,782千円、修繕費1,757千円、ホテル総合情報システム賃借料1,460千円					
単位コスト	算出方法	総事業費/利用者数 ※工事関係費を除く				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		1,011円	951円	8,937円	11,348円	

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数
	目標	365日	365日	366日	365日	365日
	実績	365日	365日	366日	334日	
成果指標	名称	利用者数	利用者数	宿泊客数	宿泊客数	宿泊客数
	目標	68,000人	69,000人	13,100人	14,200人	14,500人
	実績	73,630人	79,030人	12,350人	10,130人	
	目標比	108.3%	114.5%	94.3%	71.3%	

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	◎	◎	○	△	
評価の理由	成果指標の達成状況による				

◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない

5 改革の実施状況（平成29年度～）

- ・月1回の取締役会、(株)胎内リゾート役員及び市担当職員による週1回の定例会により、スピード感をもった経営改善化策が講じられる体制を構築
- ・辺地債事業による設備改修工事を実施
- ・大規模都市圏からの団体誘客の強化に努めた
- ・インバウンド誘客を図るため台湾へのトップセールスを実施

[R1]

- ・辺地債を活用した展望露天風呂の全面改修

[R2]

- ・ホテル総合情報システムの入替えにより事務を効率化
- ・新型コロナウイルスによる来客減の影響を抑えるため一時休業・時短営業を実施
- ・市及び国県の宿泊支援事業を活用
- ・ワーケーション用設備の整備を行い、グランピング事業も開始

6 事業の課題

- ・今後も感染の増減による先行きは不透明で、消費マインドの回復にも時間がかかることが予想される。

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	⑤	③	②	②	
市及び国県の宿泊支援事業を活用し、個人および団体誘客を促進する。					
キャンプ等のプランが活況を呈しており、アウトドア志向の高まりに対応できる体制を構築する。					
新型コロナウイルスの収束を見据え、国のキャンペーン等による特需に左右されない確たる顧客戦略を描くことが不可欠である。					

8 二次評価委員会所見

今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
		削減	縮小	維持
コスト投入の方向性				

今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
		削減	縮小	維持
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330317		担当課	商工観光課		担当係	観光振興係		担当者		
事務事業名	奥胎内ヒュッテ管理事業		事業年度	令和2年度			会計区分	一般会計			
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	07	商工費	
施策	15	観光・交流		中	03	施設・エリアの魅力向上と閑散期等対策		項	01	商工費	
				小	17	奥胎内ヒュッテ管理事業		目	03	観光費	
事務区分	法定受託事務		自治事務		○	根拠法令					
	法令による義務付け		任意			関連条例	胎内市奥胎内野営場宿泊休養施設条例	関連計画	第2次胎内市観光振興ビジョン		

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	奥胎内の大自然の立地条件を生かし、大自然を体感できる宿泊施設及び憩いの場を提供する。
主な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・奥胎内ヒュッテの管理 ・平成22年度より指定管理者制度を導入しており、現在は(株)胎内リゾートに運営を委託（令和2年度から2年間）
実施方法	指定管理

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	△	△	△	△	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	成果指標の達成状況による				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

- ・月1回の取締役会、(株)胎内リゾート役員及び市担当職員による週1回の定例会により、スピード感をもった経営改善化策が講じられる体制を構築 [H30]
- ・奥胎内ダムツアー、奥胎内巨樹巡礼ツアーの商品化 [R1]
- ・辺地債を活用した公衆トイレ新設 [R2]
- ・4階フロアを飯豊連峰登山者を対象に販売開始
- ・Wi-Fi設置工事を実施

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	766	8,022	50,052	1,278	808	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	6,300	49,000	0	0	
その他	490	490	10	10	10	
一般財源	276	1,232	1,042	1,268	798	
人件費（千円）	442	445	456	455		
正(h) ※事業費	240	240	240	240		
会計年度 ※事業任用(h)	0	0	0	0		
総事業費+人件費	1,208	8,467	50,508	1,733		
財源「その他」内訳	敷地使用料10千円					
事業費の主な支出内容	修繕費709千円、家具リース料302千円、共用施設負担金98千円、国有林借地料75千円、施設改修工事65千円、火災保険料30千円					
単位コスト	算出方法	総事業費/利用者数 ※工事関係費を除く				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		110円	162円	529円	1,011円	

6 事業の課題

- ・登山者向けフロアの告知が不十分で利用者が伸び悩んだため、情報発信力の強化が求められる。
- ・コロナ禍によるアウトドア志向の高まりを受け、キャンプ需要の新規取込や登山、サイクルスポーツ、企業向けワーケーション等の提案により客層を広げていくことが求められる。

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数
	目標	150日	150日	150日	150日	150日
	実績	107日	154日	158日	165日	
成果指標	名称	利用者数	利用者数	宿泊客数	宿泊客数	宿泊客数
	目標	9,000人	9,500人	1,200人	1,300人	1,900人
	実績	6,950人	6,380人	970人	1,200人	
	目標比	77.2%	67.2%	80.8%	92.3%	

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	⑤	③	②	②	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を増やすため、奥胎内ヒュッテの魅力伝える情報発信力の強化を行う。 ・コロナ禍によるアウトドア志向の高まりを受け、キャンプ需要の新規取込や登山、サイクルスポーツ、企業向けワーケーション等の提案により客層を広げていく。 ・奥胎内ヒュッテのコンセプトであるローコストオペレーションでの運営が軌道に乗りつつあり、営業利益も出てきているため、これを維持する方向で運営を進めていく。 					

8 二次評価委員会所見

今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
	削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性				

今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
	削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330318		担当課	商工観光課		担当係	観光振興係		担当者			
事務事業名	クアハウスたいない管理事業			事業年度	令和2年度			会計区分	一般会計			
基本政策	3	産業・雇用		事業コード	大	33	観光・交流		予算科目	款	07	商工費
施策	15	観光・交流			中	03	施設・エリアの魅力向上と閑散期等対策			項	01	商工費
					小	18	クアハウスたいない管理事業			目	04	クアハウスたいない費
事務区分	法定受託事務			自治事務		○	根拠法令					
	法令による義務付け			任意			関連条例		クアハウスたいない条例	関連計画	第2次胎内市観光振興ビジョン	

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	指定管理者制度によりクアハウスたいないを運営し、住民および胎内市に訪れる人々の保養と健康増進の場を提供する。
主な実施内容	プール、温泉、トレーニング設備等の管理運営
実施方法	指定管理

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	△	△	○	△	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	4月17日～5月11日の25日間、新型コロナウイルスの影響により緊急事態宣言を受けて休館となった。再開後も利用者は増えず年間利用者数は前年比-21,183人となった。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

- 令和2年度から運営の改善等を図るため毎月1回、指定管理者先の担当者と打合せをしている
- 使用料の見直しを図るため令和2年度から利用者と意見交換会を開催している。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	45,292	150,895	38,814	39,128	39,141	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	10,600	113,649	0	0	0	
その他	52	52	76	42	53	
一般財源	34,640	37,194	38,738	39,086	39,088	
人件費（千円）	342	518	530	529		
正(h) ※事業費	186	279	279	279		
会計年度 ※事業費	0	0	0	0		
任用(h) ※事業費						
総事業費+人件費	45,634	151,413	39,344	39,657		
財源「その他」内訳	敷地使用料42千円					
事業費の主な支出内容	指定管理料37,290千円、工事費982千円、修繕費639千円など					
単位コスト	算出方法	総事業費/利用者数 ※工事費を除く				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		339円	435円	374円	474円	

6 事業の課題

- 維持管理経費と使用料収入の均衡について継続的に精査しており、指定管理料と合わせ利用料金を見直しを検討する。
- 施設の設備を最大限生かしたサービスができるように取り組む。

3 指標値の状況

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産出指標	名称	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数
	目標	354日間	354日間	354日間	355日間	354日間
	実績	354日間	293日間	354日間	330日間	
成果指標	名称	利用者数	利用者数	利用者数	利用者数	利用者数
	目標	138,000人	140,000人	111,000人	113,000人	115,000人
	実績	102,078人	85,485人	101,570人	80,452人	
	目標比	74.0%	61.0%	91.5%	71.2%	

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	③	⑤	⑤	⑤	
<ul style="list-style-type: none"> 指定管理料、利用料金を見直しを図る。 利用者の満足度を向上させるため、健康増進施設にふさわしい事業等の取組みについて指定管理者と協議する。 					

8 二次評価委員会所見

指定管理料の引き下げにつながるよう、運営方法や施設使用料の見直しを検討する。

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
	削減	縮小	維持	拡大	
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330319		担当課	商工観光課	担当係	観光振興係	担当者			
事務事業名	樽ヶ橋遊園運営事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	07	商工費
施策	15	観光・交流		中	03	施設・エリアの魅力向上と閑散期等対策		項	01	商工費
				小	19	樽ヶ橋遊園運営事業		目	05	樽ヶ橋遊園運営費
事務区分	法定受託事務		〇	根拠法令	動物愛護管理法					
	法令による義務付け			関連条例	樽ヶ橋遊園条例			関連計画		

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	約26種類の動物の飼養、施設の運営管理を行い住民および胎内市に訪れる人々に健全な心身の憩いの場と動物とのふれあいの場を提供する。
主な実施内容	約26種類の動物の飼養、施設や遊具等の管理運営、園内の景観整備
実施方法	市が直接実施

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	57,322	174,334	145,808	505,488	161,863	
国・県支出金	0	0	0		0	
地方債	44,500	160,300	131,200	480,900	139,000	
その他	13,301	15,454	16,245	11,925	22,863	
一般財源	△ 479	△ 1,420	△ 1,637	12,663	0	
人件費（千円）	17,978	17,751	17,184	17,452		
正(h) ※事業費	〇 8,440	〇 8,409	〇 8,191	〇 8,268		
会計年度任用(h) ※事業費	〇 2,921	〇 2,520	〇 1,914	〇 1,988		
総事業費+人件費	75,300	192,085	162,992	522,940		
財源「その他」内訳	敷地使用料171千円、自動販売機手数料11千円、事業収入11,743千円（入園料、施設使用料、売店販売料、光熱水費負担金）					
事業費の主な支出内容	会計年度給与費7,394千円、需用費5,360千円、工事監理業務委託料12,100千円、その他委託料968千円、工事請負費474,219、備品購入費3,874千円					
単位コスト	算出方法	入場者1人あたり運営コスト（総事業費※+人件費）/入場者数 ※工事費・設計費を除く				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		902円	737円	669円	1,032円	

3 指標値の状況

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
産出指標	名称	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数
	目標	244日間	244日間	244日間	244日間	244日間
	実績	242日間	243日間	245日間	203日間	
成果指標	名称	入場者数	入場者数	入場者数	入場者数	入場者数
	目標	37,000人	38,000人	37,000人	45,000人	50,000人
	実績	34,140人	43,110人	47,490人	35,498人	
	目標比	92.2%	113.4%	128.3%	78.8%	

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	○	◎	◎	△	
評価の理由	新型コロナウイルスの影響により4月10日～5月20日まで休園となり、入園者数が極端に減少した。特に例年入込が多いゴールデンウィーク中に営業できなかったことが大きな要因である。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

[H29]	・大型複合遊具を設置
[H30]	・樽ヶ橋遊園休憩所「たるる」新築（H31.3） ・新規動物購入
[R1]	・ビオトープの整備 ・カナルの改修、藤棚の改修 ・いろいろテラス（幼児向け遊具）、東屋設置
[R2]	・受付ラウンジ、小動物ふれあい舎、ふれあい放牧舎、クマ舎、サル舎の新築

6 事業の課題

<ul style="list-style-type: none"> 施設の大規模改修に応じた運営体制と必要な人員配置及び育成が求められる。 園内での飲食の提供やアトラクション等のサービスが少ない。 市外の利用者多いため、市外リピーターを増やすための工夫が求められる。 リニューアルオープンに伴い、樽ヶ橋エリア内の駐車場が不足している。
--

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	①	①	④	
<ul style="list-style-type: none"> 樽ヶ橋エリアの中核を担う施設でもあり、事業目的である健全な心身の憩いの場、動物とのふれあいの場を提供するため、施設機能の適正な維持管理を行う。 動物を飼養管理するにあたり飼育員の増員を検討する。 市外利用者の年間パスポート券の設定。 辺地債を活用し駐車場の整備を検討する。 					

8 二次評価委員会所見

事業費の状況なども検証しながら、指定管理への移行について検討する。

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
	削減	縮小	維持	拡大	
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330320		担当課	商工観光課		担当係	観光振興係		担当者	
事務事業名	胎内スキー場管理事業		事業年度	令和2年度			会計区分	一般会計		
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	07	商工費
施策	15	観光・交流		中	03	施設・エリアの魅力向上と閑散期等対策		項	01	商工費
				小	20	胎内スキー場管理事業		目	03	観光費
事務区分	法定受託事務		自治事務		○	根拠法令				
	法令による義務付け		任意			関連条例	胎内市地域間交流センター条例・胎内市索道事業条例	関連計画	第2次胎内市観光振興ビジョン	

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	胎内スキー場を管理し、地域の特性及び資源を活かした雪国の独自性ある交流事業によって魅力ある地域づくりを推進する。
主な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 胎内スキー場の管理 平成22年度より指定管理者制度を導入しており、現在は(株)胎内リゾートに運営を委託（令和2年度から2年間）
実施方法	指定管理

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	○	○	×	◎	
◎：達成 ○：概ね達成 △：やや達成していない ×：達成していない					
評価の理由	成果指標の達成状況による				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

- 月1回の取締役会、(株)胎内リゾート役員及び市担当職員による週1回の定例会により、スピード感をもった経営改善化策が講じられる体制を構築
- 辺地債事業による設備改修工事を実施

[R1]

- 記録的な暖冬小雪のため、営業は2日間のみ（キッズパークのみ）

[R2]

- スキー場のクラウドファンディングを実施
- ポプラのトイレ非接触化工事を実施

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
総事業費（千円）	114,714	191,456	203,119	32,991	110,718	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	85,700	159,600	177,600	7,700	90,600	
その他	2,260	475	286	698	297	
一般財源	26,754	31,381	25,233	24,593	19,821	
人件費（千円）	221	223	228	227		
正(h)	※事業費 120	120	120	120		
会計年度任用(h)	※事業費 0	0	0	0		
総事業費+人件費	114,935	191,679	203,347	33,218		
財源「その他」内訳	辺地対策事業債7,700千円、建物災害共済金405千円、敷地使用料293千円					
事業費の主な支出内容	施設改修工事13,762千円、修繕費6,692千円、貸付測量申請委託料6,182千円、国有林借地料2,286千円、消耗品費1,334千円、圧雪車始業前整備委託料1,134千円、国設胎内スキー場運営協議会負担金400千円、樹木伐採委託料339千円、火災保険料213千円、路面清掃等委託料174千円、重機リース料122千円、土地貸上謝礼100千円、にいがたスキー100年委員会負担金100千円					
単位コスト	算出方法	総事業費/利用者数 ※工事関係費を除く				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		1,188円	618円	52,472円	271円	

6 事業の課題

- 数年に一度の暖冬少雪リスクを織り込んだ上での資産形成を念頭に施設経営にあたる必要がある。
- 設備の老朽化が進んでおり、大規模な工事となるため計画的な整備が必要となる。

3 指標値の状況

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
産出指標	名称	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数
	目標	90日	90日	80日	80日	80日
	実績	62日	67日	2日	71日	
成果指標	名称	利用者数	利用者数	利用者数	利用者数	利用者数
	目標	55,000人	56,000人	55,000人	55,000人	55,000人
	実績	48,330人	51,466人	480人	70,930人	
	目標比	87.9%	91.9%	0.9%	129.0%	

7 課題解決に向けた今後の取組

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
今後の方向性	③	③	③	③	
<ul style="list-style-type: none"> 短時間の豪雪に伴う除雪作業により臨時休業や営業の遅れが生じたため、そのことを踏まえ指定管理者と協議しながら今後の円滑な運営体制を図る。 設備の更新、ゲレンデ等の整備を計画的に進める。 					

8 二次評価委員会所見

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
		削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330322		担当課	商工観光課	担当係	観光振興係	担当者			
事務事業名	観光交流センター運営事業		事業年度	令和2年度		会計区分	一般会計			
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	07	商工費
施策	15	観光・交流		中	03	施設・エリアの魅力向上と閑散期等対策		項	01	商工費
				小	22	観光交流センター運営事業		目	03	観光費
事務区分	法定受託事務		〇	根拠法令						
	法令による義務付け			関連条例	胎内市観光交流センター条例	関連計画	第2次胎内市観光振興振興ビジョン			

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	胎内市における観光振興及び地域の活性化、観光事業の拠点となる観光交流センターの維持管理を行う。 道の駅として、また樽ヶ橋エリアの観光拠点として、観光案内や観光情報の発信を行う。
主な実施内容	胎内市観光協会を指定管理者として運営委託
実施方法	指定管理

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	◎	○	◎	△	
評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響による外出の自粛要請、県外移動の自粛などで利用者人数が減少し、目標数値を大幅に下回った。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

樽ヶ橋エリア活性化検討委員会により、進捗管理及び改善策の検討が行われている。
〔R2〕
令和2年度末で樽ヶ橋エリア活性化検討委員会を廃止。検証等が必要な場合は、胎内市観光活性化推進検討委員会で行う。

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

総事業費（千円）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	28,900	500	0	0	0	
その他	0	34	0	35	35	
一般財源	11,916	11,236	11,325	11,234	11,292	
人件費（千円）	1,326	1,336	1,367	1,364		
正(h) ※事業費	720	720	720	720		
会計年度任用(h) ※事業費	0	0	0	0		
総事業費+人件費	42,142	13,106	12,692	12,633		
財源「その他」内訳	委託料 11,000千円 備品購入費 203千円					
事業費の主な支出内容	委託料 11,000千円 備品購入費 203千円					
単位コスト	算出方法	総事業費/利用者数 ※工事費を除く				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		767円	227円	201円	296円	

6 事業の課題

特産品等の売上を伸ばすため、取扱いする商品等の見直しを行う。

3 指標値の状況

産出指標	名称	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数	営業日数
	目標	365日間	365日間	366日間	365日間	365日間
	実績	365日間	365日間	342日間	345日間	
成果指標	名称	利用者数	利用者数	利用者数	利用者数	利用者数
	目標	50,000人	51,000人	51,500人	51,500人	51,500人
	実績	53,170人	49,550人	56,230人	38,130人	
	目標比	106.3%	97.2%	109.2%	74.0%	

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	③	③	②	②	
<ul style="list-style-type: none"> 道の駅の情報発信拠点として、また樽ヶ橋エリアの観光拠点として、胎内市の観光機能としての役割は非常に大きい。 観光関連施設が連携したプログラムやイベント等を実施して、訪れる人による消費活動が活発になることで、経済的・社会的効果を高める。 特産品等の売上を伸ばすため、取り扱う商品等の見直しを図るとともに、コロナ渦でも販売促進ができるよう、通信販売等に取り組む。 					

8 二次評価委員会所見

今後の方向性				
成果の方向性	拡充	④	②	①
	維持	⑤	③	
	縮小	⑥		
	休廃止	⑦		
		削減	縮小	維持
コスト投入の方向性				

事務事業評価シート（評価対象年度：令和2年度事業）

事業コード	330410		担当課	商工観光課		担当係	観光振興係		担当者	
事務事業名	観光振興事業		事業年度	令和2年度			会計区分	一般会計		
基本政策	3	産業・雇用	事業コード	大	33	観光・交流	予算科目	款	07	商工費
施策	15	観光・交流		中	04	効果的・効率的な情報発信		項	01	商工費
				小	10	観光振興事業		目	03	観光費
事務区分	法定受託事務		自治事務		○	根拠法令				
	法令による義務付け		任意			関連条例	関連計画	第2次胎内市観光振興ビジョン		

1 事業の取組状況

事業の目的・概要	観光振興ビジョンが掲げる目指すべき観光地「どこにでもある田舎から何度も訪れたいふる里へ～胎内のみんなで旅人をムラビトへ」の実現を図るため、市民を始めとした多様な主体と協働しつつ、観光コンテンツの造成・販売・PRを行う
主な実施内容	観光コンテンツの造成 ○イベント・各種体験プログラムの開催 チューリップフェスティバル（中止）、米粉フェスタinたいない（中止）、胎内スキーカーニバル（中止）胎内温泉まつり（中止）、胎内星まつり（LIVE配信）、中条まつり（中止）、飯豊連峰胎内山開き、櫛形山脈山開き（中止）など ○施設（44施設） 櫛ヶ橋遊園、グリーンハウスたいない、観光交流センター、胎内フラワーパーク、胎内高原ビール園、レクホール、胎内昆虫の家、胎内自然天文館、クレーストーン博士の館、黒川郷土文化伝習館、シンクルトン記念館、奥山荘歴史館、桃崎浜文化財収蔵庫、有楽荘、胎内スキー場、ロイヤル胎内パークホテル、奥胎内ヒュッテ、フィッシングパーク、そば処みゆき庵、塩の湯温泉、クアハウスたいない、きのと観光物産館、ポート場、ロイヤルテニスコート、胎内市美術館 など 観光コンテンツの販売・PR いりどり胎内等紙媒体制作、胎内観光NAVI等WEB媒体の運用、首都圏等商談会でのAGTセールス（中止）、台湾AGTへのトップセールス（中止）、表参道ネバス等での特産品販売（中止） ※新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止したものについては「（中止）」を付記しています。
実施方法	市が直接実施＋補助・負担

2 事業費の状況（※平成29年度～令和2年度は決算額、令和3年度は当初予算額）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総事業費（千円）	40,381	45,156	41,978	49,812	38,424
国・県支出金	0	0	1,000	12,671	1,000
地方債	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	8
一般財源	40,381	45,156	40,978	37,141	37,416
人件費（千円）	21,882	17,818	18,230	18,192	
正(h)	9,600	9,600	9,600	9,600	
※事業費 会計年度 任用(h)	○	5,040	5,040	5,040	
総事業費＋人件費	62,263	62,974	60,208	68,004	
財源「その他」内訳	観光協会負担金、胎内市観光振興推進サポーター負担金、米粉推進業務委託料、印刷製本費				
事業費の主な支出内容	観光協会負担金、胎内市観光振興推進サポーター負担金、米粉推進業務委託料、印刷製本費				
単位コスト	算出方法				
	実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度

3 指標値の状況

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
産出指標	名称 ①行事・イベント数 ②施設・スポット数	①行事・イベント数 ②施設・スポット数	①行事・イベント数 ②施設・スポット数	①行事・イベント数 ②施設・スポット数	①行事・イベント数 ②施設・スポット数	
	目標	①23 ②43	①25 ②43	①23 ②27	①23 ②27	①23 ②27
	実績	①20 ②47	①24 ②44	①285 ②44	①303 ②44	
成果指標	名称 ①行事・イベント来場者数 ②施設・スポット来場者数	①行事・イベント来場者数 ②施設・スポット来場者数	①行事・イベント来場者数 ②施設・スポット来場者数	①行事・イベント来場者数 ②施設・スポット来場者数	①行事・イベント来場者数 ②施設・スポット来場者数	
	目標	①127,000人 ②1,001,000人	①129,540人 ②1,021,460人	①128,000人 ②1,000,000人	①128,000人 ②1,000,000人	①128,000人 ②1,000,000人
	実績	①132,967人 ②916,400人	①101,570人 ②883,566人	①126,000人 ②947,360人	①2,436人 ②834,510人	
	目標比	①104% ②91%	①78% ②87%	①98% ②95%	①2% ②83%	

4 達成度

達成度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	○	○	○	△	
評価の理由	コロナ禍による外出自粛傾向に伴い目標の達成には至らなかった。				

5 改革の実施状況（平成29年度～）

【R1】	<ul style="list-style-type: none"> 入込客数に重点を置いたイベント中心の施策から、年間を通じた観光関連事業者の売上高にも寄与する施策へと移行 開催意義・狙いを改めて再定義しつつ、内容等の充実詰ったうえでのイベント開催。 市、観光協会、胎内リゾート、観光ボランティアガイド等からなる連携会議を組織し、春夏/秋冬を軸に「イベント」「体験プログラム」「宿泊プラン」「グルメ」といった観光コンテンツを戦略的に造成・販売。
【R2】	<ul style="list-style-type: none"> 各主体をコーディネートする役割を担う「観光振興推進サポーター」の導入。 コロナ禍においても催行可能な個人向け屋外アクティビティの推進。

6 事業の課題

<ul style="list-style-type: none"> 胎内リゾートエリアにおける展観施設等との連携強化。 二次交通の利便性向上。 観光協会の役割、あり方の見直し

7 課題解決に向けた今後の取組

今後の方向性	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	⑤	③	②	③	
<p>コロナ禍以降、団体から個人単位に、また、イベントは大規模型から小規模型へとシフトしてきていることから日々変化する観光ニーズを捉え柔軟に対応していく。</p> <p>また、宿泊と観光プログラムを合わせた商品の造成や観光客のニーズに応えるために必要な取組みを把握し、観光関連事業者の売上高に寄与していく。</p>					

8 二次評価委員会所見

今後の方向性					
成果の方向性	拡充	×	④	②	①
	維持	×	⑤	③	×
	縮小	×	⑥	×	×
	休廃止	⑦	×	×	×
		削減	縮小	維持	拡大
コスト投入の方向性					